

「海炭市叙景」を映画化。

西高出身の作家

故・佐藤泰志氏（西高十八回生）の代表作



西高出身の作家で、芥川賞候補に五回選ばれながら一九九〇年自ら命を絶った佐藤泰志（享年41）の遺作「海炭市叙景」の映画化を同級生や函館の文学ファンが準備を進めています。一昨年刊行された作品集の売れ行きも好調で、昨年11月には函館市内でシンポジウムが開かれるなど、その作品が再評価される中、「函館の人々の等身大の生活を描いた小説をぜひ映像にしたい」と函館で同人誌を主宰する同級生の西堀滋樹さんは、話しています。



「海炭市叙景」映画化に向けて

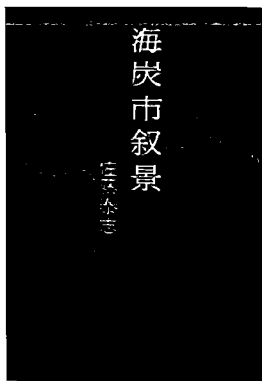
今回、函館をモデルにした小説「海炭市叙景」を映画化する取り組みをすすめています。この小説の著者・佐藤泰志は函館西高18回生で、在学中から有島青少年文芸賞を二度受賞するなど、その文学的才能が評価されていました。上京後、作家として一本立ちし、以後通算5回にわたり芥川賞候補となる作品を発表しましたが、1990年、41歳で自ら命を

絶ちました。その後、同窓生が彼の死と才能を惜しみ、著書の表紙絵を函館市文学館に寄贈したり、追想集を発行したりしてきました。文学館では、佐藤泰志コーナーが常設展示されています。この4月から、遺作となった「海炭市叙景」の映画化に向けて、募金活動が始まりました。函館出身の作家の、函館を舞台にした作品を、函館ロケにより、函館市民の力で創りたいというのが大きな目的です。



海炭市叙景

両側を海に挟まれた北国の小さな砂州の街・海炭市。この作品は函館の街を思わせる架空の地方都市・海炭市を舞台に、そこに生きる若者の屈折した青春の姿を描き出し、一筋の光りを求めて暮らす家族の再生の姿を描いている。職を失い、ひっそりと身を寄せ合うように暮らす若い兄妹、娘の出産を待ちながら、造船所のある町まで市電を運転する初老の運転士。両親が住むこの町に移り住むためやってきた妻子持ちの男は、みぞれ降る中を引越荷物の到着をひたすら待ち続ける……。そんな様々な事情を抱えた人々が、海炭市のどこかで交差し連鎖しながら織りなしてゆく十八編からなる物語。



市民有志が映画化を目指す
「海炭市叙景」の単行本（絶版）

略歴

- 1949年 北海道函館市高砂町に生まれる。
- 1966年 西高在学中に「青春の記憶」で第4回有島青少年文芸賞優秀賞受賞。
- 1967年 「市街戦のジャズメン」で第5回有島青少年文芸賞優秀賞受賞。
- 1970年 函館市立第一高等学校哲学科入学。
- 雑誌「黙示」に参加。
- 1971年 同人誌「立待」創刊。
- 1974年 函館大学卒業。
- 1977年 同人誌「厲エスキモ」を創刊。
- 「移動動物園」で新潮新人賞候補。
- 1982年 「きみの鳥はうたえる」で第86回芥川龍之介賞候補。
- 1983年 「空の青み」で第88回芥川龍之介賞候補、「水晶の腕」で第89回芥川龍之介賞候補、「黄金の服」で第5回野間文芸新人賞候補。
- 1984年 「黄金の服」で第90回芥川龍之介賞候補。
- 1985年 「オーバー・フェンス」で第93回芥川龍之介賞候補。
- 1989年 「そのみで光り輝く」で第2回三島由紀夫賞候補。
- 1990年 東京・国分寺の自宅近くで自ら命を絶つ。享年41歳。
- 2007年 死後十七年経って「佐藤泰志作品集」がクレインより発行される。

未曾有の不況の昨今、とりわけ地方の現状は厳しく函館も例外ではありません。しかし、そんな時だからこそ、少しでも函館の街に夢や希望を与えられればという思いと、今の函館の姿を映像として留めておくために活動をすすめています。どうか西高同窓生のみならずにも、函館発の映画製作に力をお貸しくくださるようお願いいたします。

西高十八回生
西堀 滋樹（函館在住）

個人の尊厳を大切に、その人らしさをいつまでも...

八王子	特別養護老人ホーム	偕楽園ホーム
岐阜	特別養護老人ホーム	瀬戸の里
函館	特別養護老人ホーム	戸井湖寿荘
岐阜	特別養護老人ホーム	みずなみ瀬戸の里
岐阜	特別養護老人ホーム	ニツ森ホーム

2008年 岐阜の3ホームでは一番古い「瀬戸の里」が有料民間福祉施設として天皇陛下より表彰されました。

医療法人社団新谷会 **新谷医院** 東京都府中市朝日町2-30 TEL.042-361-9419
医学博士 新谷義克（西高1回生）

ほとんど絶版となった彼の作品が十七年ぶりに日の眼をみることで、代表作が収められた「佐藤泰志作品集」が図書出版クレインから2007年刊行。小説10編、エッセイ7編と詩6編が収められています。早生の彼の世界に触れてみては如何でしょうか。

●全国の書店にてお求めになれます。
●直接「図書出版クレイン」へご注文は
TEL・0422(28)7780
FAX・0422(28)7781

絶版の「海炭市叙景」が収められている
「佐藤泰志作品集」
図書出版クレイン

四六版 / 688 ページ
定価 3,465 円

profile-02 東京支部の人々

東京支部会員には、様々な分野で活躍して来た方がいます。普段何気なく手にするものでも、その陰には多くの人のたゆまない研究から生まれたものが沢山あり、そのような一般的にはあまり馴染みのない専門的な学術・研究分野のそれぞれのジャンルで高い評価を受けて活躍している西高卒業生がいます。今回は、そのような方々をご紹介します。

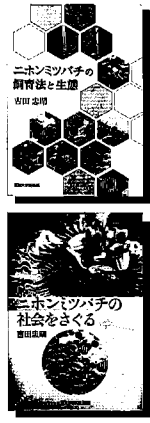
ミツバチ研究、三十一年。



農学博士 吉田忠晴 教授 (西高15回生)

小田急線を跨ぐ形で広がる59万㎡という広大なキャンパスの玉川大学(町田市)には学術研究所が付設されています。その中の施設の一つに、日本で唯一のミツバチとその生産物に関する総合研究機関としてミツバチ科学研究所センターが組織され、その教授として勤務している吉田さんは、玉川大学農学部昆虫学研究室を卒業後、9年間外部の研究所で研究活動に従事。その後、1978年から母校の玉川大学に戻り、ミツバチと共に31年を迎えています。専門は養蜂学で、特に日本在来種のニホンミツバチと産業養蜂種として導入されたセイヨウミツバチの配偶行動が研究の中心。ハチミツやローヤルゼリーの生産に使われ、野原で目に付くミツバチは、もとはヨーロッパとアメリカが原産のセイヨウミツバチで、アメリカに導入された後、明治の初めに日本に輸入されたそうです。その時から日本には2種のミツバチが生息するようになり、ニホンミツバチとセイヨウミツバチは、交尾する

時間や交尾場所を分けることによって種を維持している生殖隔離機構を解明されました。現在も配偶行動、ニホンミツバチの選抜育種、ポリネーター(受粉媒介者)としてのミツバチの利用など幅広い研究を進めています。この間に国際協力事業団養蜂専門家として南米パラグアイの養蜂技術協力に3年間従事し、ドイツ・フランクフルト大学ミツバチ研究所で一年間の在外研究など、調査・研究での渡航先は26ヶ国にわたっています。



著書：ニホンミツバチの飼育法と生体(上) ニホンミツバチの社会をさぐる(下)

プロフィール 1946年函館市生まれ。函館西高卒業(15回生) 玉川大学農学部卒業 玉川大学ミツバチ科学研究所センター教授 農学博士

また、2005年には、ウクライナのユーシチェンコ大統領が来日の際には、同国の養蜂協会副会長の肩書きを持つ同大統領からの希望で、吉田さんの研究所を訪れ、その研究活動を熱心に聞かされて行ったそうです。2000年に「ニホンミツバチ飼育法と生態」、2005年に「ニホンミツバチの社会をさぐる」(共に玉川大学出版部)を出版。ニホンミツバチはセイヨウミツバチに比べ温和で、病気や害敵に強く、飼いやすいハチとのこと。そのため、庭先のペットとして最近注目されるようになったことがあり、その飼育法を分かりやすく解説した「ニホンミツバチの飼育法と生態」は、毎年重版され2008年12月には第7刷を迎えています。「西高時代は生物部で昆虫採集に夢中だった昆虫少年でしたが、それは今の仕事につながる原点でもあったように思われます」とおっしゃる吉田さんは、今も、少年時代の笑顔そのままにミツバチの話を熱心に話されていました。

ビフィズス菌と三十年。

「森永ビヒダスヨーグルト」は私の分身です。



農学博士 八重島 智子さん (西高16回生)

プロフィール 1947年函館市生まれ 函館西高卒業(16回生) 北海道大学農学部卒業 森永乳業株式会社 食品基盤研究所 生物機能研究部部長 農学博士



開発に携わった「森永ビヒダスヨーグルト」

横浜から30分ほどの相鉄線さがみ野駅より続く桜並木に面したところにある森永乳業株式会社 研究情報センター(座間市)、その中の食品基盤研究所に勤務する八重島智子さんは、北海道大学農学部農芸化学科を卒業して森永乳業株式会社に入社。当時は目黒区にあった中央研究所に配属になり、ほぼ40年研究活動に従事しています。入社以来研究分野は一貫して微生物とのこと。乳業会社ですから微生物といえば乳酸菌が本流ですが、最初の7、8年は乳酸菌とは関係のない色々な研究を行っていました。

その後、長い付き合いになる「ビフィズス菌」と出会い、そろそろ30年になるそうです。近年、一般家庭でも健康には非常に敏感で、健康食品の類を取り入れている人は、とても増えています。「ビフィズス菌」という名前も良く耳にしますが、腸に良いというコマーシャルの受け売り程度の理解です。そこで何うと、ビフィズス菌はヒトや動物のおなかの中に住んでいる腸内菌の一種で、100年以上前に健康な乳児から分離され、乳児の健康維持に寄与している有益な菌として注目されてきたものなのです。

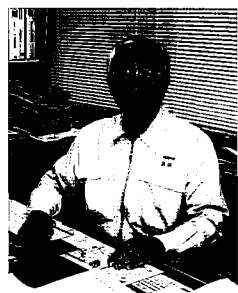
そのビフィズス菌を食品へ応用した「森永ビヒダスヨーグルト」の研究・開発に従事したのがビフィズス菌とのかかわりの始まりで、その後、開発からは離れ、ビフィズス菌そのものの基礎研究、生理作用の研究、臨床試験などの研究に取り組んできました。この間に理化学研究所・国際フロンティア研究システム・フローラ研究チームで3年間ビフィズス菌や腸内菌叢の研究に従事し、このときの研究成果を基に学位を取得したとのこと。上司の方をはじめとして色々な人と出会い、たくさんの方のお世話になりながら、このようなヒトの健康に役立つ研究に携わってこられたのは幸運だった、と話しておられました。

www.td-tokyo.com information 昨年10月の開設以来、多くの皆さんにアクセスいただいている「東京支部ホームページ」。「事務局トピックス」が「会員だより」のブログも多数ご覧いただけます。タイムリーに記事が掲載されますので、同期会のご案内やご報告、同窓生のお店の紹介、イベント告知などに、お気軽にご活用ください。掲載記事はメールにてお寄せください。 info@td-tokyo.com

「春のバル街」開催。西高吹奏楽部OBが奏でる ジャズの調べ Mr. Chiba & VEST Joint Concert in BAR-GAI 19 April 2009 前回の会報4号でご紹介させていただいた「函館西部地区バル街」が4月19日に開かれました。スペインの旧市街に多いバルに見立てて西部地区の飲食店 店が参加、お客は5枚つづりのチケットを持って、次々とお店を渡り歩くというイベントです。11回目になる今回は、函館市民に加え、札幌や旭川など道内各地から、青森や東京からの常連や仙台、石巻、柏などからの団体客などが、初春の函館に繰り出しました。20、21日に続いて開かれる世界料理学会に参加するスペインや南米のシェフ、また日本の著名な料理人たちがバル街を楽しみました。バル街ではさまざまな音楽ライブが街のあちこちで開かれますが、今回の特筆ものは、西高16回生の千葉浩君と、19回生の木幡英二君が主宰するビッグバンドV.E.S.T.の共演が実現したことだと思います。V.E.S.T.には、西高20回生の渡辺広君も参加しています。水道局舎IIアクロス十字街のホールで10曲に渡る演奏が行われ、多くの聴衆が聴き入りました。東京在住で音楽活動を続けてきた千葉君はこの日の演奏のために10曲以上をアレンジして東京から送り、函館入りして前日からリハーサルを繰り返して臨みました。千葉君と木幡君の軽妙なトークのかけ合いもあり、笑いにも満ちた温かい時間が流れました。千葉君が帰ってきたということ、16回生もたくさん駆けつけました。千葉君はアクロス十字街での演奏終了後、五島軒本店雪河亭に向かい、19回生の八木啓一君が取り仕切るフロアでワインを傾けるバル街のお客を前に、ソロでスタンダードナンバーを演奏しました。バル街の参加店にはやはり16回生の広瀬菊枝さんがやっている喫茶「OLIVIA」があたりますが、ここには同級生が10人ほど集まって、クラス会とバル街参加を兼ねていました。バル街の次回は9月11日の金曜日開催が決まっています。 加納諄治(西高16回生・函館)

日本から発進

—グローバルNo.1の農業をめざして—



理学博士
熊沢 智氏
(西高16回生)

多くの人が行き交う東京駅の待ち合わせ場所「銀の鈴」に、今回ご紹介する三人目の熊沢さんが、笑顔で待っていてくれました。岐阜への出張帰りの途中に貴重な時間をさいて取材に応じていただきました。

熊沢さんがお務めの株式会社クレハ総合研究所は、みなさん日々の暮らしでお馴染みの「クレラップ」の会社です。

上野駅からJR常磐線で約2時間の福島県いわき市勿来(なごそ)にある日本でも有数の広大な面積を有する工場の研究所で、30年来、農業の開発に携わってきたそうです。

「新しい農業を生み出すことは、宝くじの一等賞を当てるよりも難しく、実に、幸運にめぐまれることが大事です。一般に農業や医薬品などの新薬を開発するには、10年以上の年月がかかります。私手がけた二つの農業を7年という短期間で商品化することが出来たのは、関係部署間の信頼のつながりが上手に働いたことです。二つの農業は、現在、日本と世界数十カ国で販売されており」と、語る熊沢さんは、現在、新しい研究の種を企画、発掘するかわら、大学院生や高専の学生へ農業をテーマに講義をしています。大学院生への講義は足かけ15年になるそうです。講義では、昨今のBSE問題や日本では使用禁止になっている殺虫剤メタミドホスの不正使用などでゆれる食品の安全性などの問題にも触れながら、人と環境に対する農業の安全性と最新の農業科学を紹介しています。しかし始めは、安全性に懐疑的だった学生の中にも卒業後、「会社の研究所で農業開発の仕事をしています」という

プロフィール

1947年函館市生まれ
函館西高卒業(16回生)
東北大学大学院理学研究科博士課程修了
(株)クレハ 研究開発本部 総合研究所
特別研究室 特任シニアリサーチフェロー
理学博士
受賞歴

1995年10月

第28回日本化学工業協会技術賞受賞

【受賞題目】 農業用殺菌剤メトコナゾールの開発と企業化

2000年3月

平成12年日本農業学会技術賞受賞

【受賞題目】 殺菌剤イプロナゾールおよびメトコナゾールの開発

うれしい便りをくれたケースもあり、農業の安全性について、地道な啓蒙活動を継続的に行っていくことが大事であると改めて実感しているところだそうです。

「有史以来初めてという飽食の時代を享受している私たち日本人にとって、近未来の世界的な食糧危機を想像することは難しいと思います。2009年に67億人を突破した世界人口は2050年に、93億人に達すると予測されており

ます。現在の農業技術で食糧を生産するならば、耕地の広さを現状の1.4倍に増大しなければこれを養うことは出来ません。しかし、耕地の砂漠化や塩害の害などが進み、これからの耕地の拡大はほとんど望めません。それを解決するには、耕地面積当りの収穫量の飛躍的な増大が頼りとなります。これを実現するには、品種改良をはじめ各種農業技術の格段の進歩が必須であり、農業の高性能化も重要な一翼を担っております。

日本の農業メーカーは、欧米大手会社との規模の大きさに比べ小さいながらも、新しい農業を生み出す発想の豊かさや元気をもち続けています。弊社の農業は、現在も世界へ向けて、グローバルな展開を進めております」と、熱く語る熊沢さんは、ご自身の研究をはじめ国家規模のプロジェクトや後進の育成と東奔西走の日々ですが、暇を見つけては、函館に帰り旧友と酒を酌み交わすのが元気の素だそう。どうやら熊沢さんには函館の空気が、なにより薬のようです。

Newspaper Clipping

新聞キリヌキ
ハコダテ情報!

西高46年ぶり全道へ
函館西高46年ぶり全道大会へ
西高男子バレー部が今年一月に開かれた第40回全国高校選抜優勝大会南北海道予選会で男子チーム中三位になり、1962年以来的全道大会出場を決めました。一時、活動休止の時期もあったほどで、現在も僅か8名のほぼ全員が初心者といえる同部を三年前に着任した滝沢監督(西高教員)が指導。見事、悲願の全道大会へ進みました。頑張った部員のみなさんおめでとう。

NUDYLINE NANA ミニアルバム発売
昨年「日本クラウン」からメジャーデビューを果たした女性二人のボーカルユニット「NUDYLINE(ヌディライン)」のメンバーNANAさん(本名・齊藤菜七実さん)(西高53回生)は、二枚目のミニアルバム「裸線音楽室」を発売。プロモーションで大好きな故郷・函館を訪れ、二月には、待望の函館での初ライブを行いました。ラテンやレゲエなどノリの良い曲調です。今後のご活躍を期待しています。

「13回生・三八会報告」 二〇〇八年秋。 前夜祭から日光へ

旅行幹事 木谷勝子

二〇〇八年十月三〜五日、函館、札幌、大阪、鹿児島、栃木、東京近郊在住の三八名で日光旅行をしました。まず三日は前夜祭。旅行に参加出来ない仲間も入り夜のレインボーブリッジを眺めながらレストランのバンケットルームでの港おどりに盛り上がりました。

翌四日、バスにて出発。この時のバスガイドさんが、私達以上に元気。小玉会長との吉本顔負けのやりとりで車内は大笑い。ビンゴゲームでは、その景品がすごいのです。後期高齢者になってから使うであろうと思われる大きなB4サイズの電卓、不況を吹き飛ばす百億円札束メモ用紙、等々。途中、華嚴の滝、日光東照宮を見学。修学旅行から四十年以上も経っている思い出の場所でした。

函館西高46年ぶり全道大会へ

西高男子バレー部が今年一月に開かれた第40回全国高校選抜優勝大会南北海道予選会で男子チーム中三位になり、1962年以来的全道大会出場を決めました。一時、活動休止の時期もあったほどで、現在も僅か8名のほぼ全員が初心者といえる同部を三年前に着任した滝沢監督(西高教員)が指導。見事、悲願の全道大会へ進みました。頑張った部員のみなさんおめでとう。

数越敏廣(元西高教諭)さん 函館市スポーツ賞受賞

地域や職場で、スポーツの普及や発展に貢献した人・団体に贈られる2008年度の函館市スポーツ賞功労者部門において、市ラグビーフットボール協会会長などとして、道内でラグビーの普及・発展に努めた数越敏廣さん(元西高教諭)が受賞されました。函館西高ラグビー部監督、函館陵北高ラグビー部部長として計五度にわたり全国高校ラグビー選手権出場に、また大学や社会人チームへ多くの選手を輩出、日本代表選手も生まれるなど、その貢献は、道内に限らず全国的に高く評価されています。気さくな人柄で、同窓会や同期会にもよく出席くださり、元担任の同窓生はもとより多くの同窓生からも人気の高い同氏です。あらためて受賞のお祝い申し上げます。

宿に着き、いよいよ夜の大会が始まりました。敢えて座席は、男性、女性、がまとまらない様にしました。いろいろな方と沢山おしゃべりをして

欲しかったからです。大広間のステージでは、クラス毎に自己紹介。そして「港おどり」が始まったのです。大広間は、笑い笑いの渦です。その後、幹事部屋での二次会。狭い部屋で酸素不足になりながらのおしゃべり。ポロリと本音もそれが又、楽しいのです。温泉に入ってお休み。でも三次会に行った元気な方もおりました。

五日はもう、別れの日です。朝一番に東武ワールドへ。二時間少して世界一周



写真下/宴会の港おどりで盛り上がる38会のみなさん。

をしました。後で写真を見ますと、まるで現地で撮ったようです。二日目の車内も大笑い。昨日に劣らずバスガイドさんと小玉会長は、舌好調でした。百円を三十八倍にするゲームでは、手に入れた全財産を幹事会に寄付して下さった川村さん、ありがとうございました。誰一人として体調も崩さず、無事、浜松町到着。飛行機の時間に遅れないように羽田へ。そして浜松町での別れ。次回の合同旅行は、二〇一〇年に計画しております。

でも、三八同期会東京支部では、今年もメタボ対策を第一に、健康に気配りした集まりをいたします。是非、ご参加下さい。

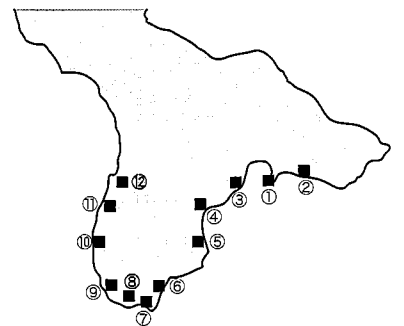
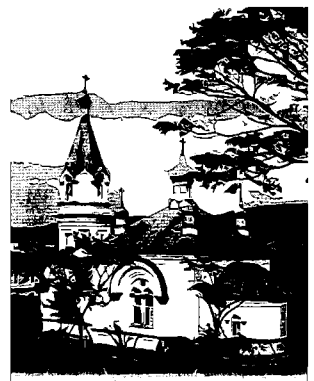
《後記》私達が降車して一番ほっとしたのは、あの元気なバスガイドさんだったと思います。「この二日間、本当に疲れたー。」と彼女の本音ともとれるボヤキが聞こえそうでした。



「はこだて検定公式ブック」

木谷勝子 西高十三回生

第一章「歴史」 中世そして松前藩と箱館



- ① 箱館
- ② 志苔館 (志濃里館)
- ③ 茂別館
- ④ 中野館
- ⑤ 脇本館
- ⑥ 隠内館
- ⑦ 軍部館
- ⑧ 大館
- ⑨ 橋保田館
- ⑩ 原口館
- ⑪ 比石館
- ⑫ 花沢館

ハコダテ(箱館)は、小さな館を表すハクチャンというアイヌ地名から転じた可能性があります。

北海道最古の文献記録は、松前藩の「新羅之記録」で十五世紀頃以降の道南の出来事が記されています。この中には一四五七年、アイヌと道南地方に存在した十二の和人家族の館主との戦い、一五二二

年に、再びアイヌとの戦いが生じ箱館と志濃里館(志苔館)は二度に渡り敗れたため、函館地方は、完全に松前氏の支配下に入りほとんど記録上には登場しなくなり

ます。それでも南北朝時代(一三三三六〇一三九二)の「庭訓往来」には、蝦夷地から都へ宇賀昆布・夷鮭を送ったこと。この宇賀昆布は、箱館から志苔館

および戸井館辺りまでの海岸一帯の主産物であったものと考えられます。新羅之記録にも「宇賀岸全盛の時、毎年三回

づつ若州(現在の福井県)より商船来たり」とあり、中世の函館地方の交易が盛んであった事がわかります。一九六八年

七月、志海苔町の漁港付近で道路工事中に大きな壺を三個に一・六t、三万七枚以上の穴あき銭が発見されました。

又、和人家族の拠点として函館市東部の志海苔町・赤坂町に志海苔館があります。それぞれに誰が何の目的で埋めたのか、誰が建てた館なのか判明されておりませ

ん。松前藩の支配下にあった箱館は、十八世紀半ばに、松前・江差と共に交易港に指定され生産物の流通の拡大と共に繁栄するようになりました。

沖之口番所(のちに沖之口役所に改称)を置き、船舶、積荷、旅人を検査し沖之口銭(税金)を徴収し本州からの船は三港以外で交易する事は出来ませんでした。沖之口番所は、大町の旧函館西警察署跡にありました。(現函館市臨海研究所)

十八世紀半ばまで本州諸港との交易は、松前に出店を持つ近江商人の荷所船に握られていましたが、天命期(一七八一〜一七八八)頃から北前船の出現と長崎俵物の移出開始で箱館は、大きく変化する事になったのです。松前しか入港出

来なかつた近江商人の荷所船と違って北前船は、船頭が船荷を自由に売買する権限を持ち、市場として有望な箱館にも入

港する船が増加し始めた事によるものです。一九世紀以降、北前船は箱館と本州諸港とを結ぶ日本海海運の要にした事で

花形に成長し集荷地である箱館で売買取引を行い、且つ箱館を拠点に東蝦夷地に進出、海産物の積取りにと広がって行きました。

さらに箱館を発達させたものに長崎俵物がありました。長崎俵物とは、中国やオランダとの交易の決済用の銅の欠乏から幕府が銅の代用とした海産物のことで

す。煎海風(海風の腸を取り、ゆでて干したものの)、干鮑、鱧鱈などです。一七五四年、松前三港に指定問屋(箱館

は長崎屋半兵衛)が置かれ俵物の集荷は近江商人から離れ、さらに箱館は時の江戸幕府・老中田沼意次から注目され一七八五年、長崎俵物会所が箱館に置かれ北

平成20年度 つゝじヶ丘同窓会東京支部 会計報告

平成21年3月31日現在

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越金	2,673,301	総会関連費	211,650
年会費(振込)	1,106,480	交際費	71,000
年会費(現金)	88,000	旅費交通費	103,940
本部補助金	30,000	会議費	96,428
広告収入	110,000	通信費	551,810
懇親会収入	0	事務費	50,260
寄付金・祝儀	0	会報費(19年分)	109,725
仮払金清算	100,000	印刷費	103,950
預金利息	4,166	雑費	36,367
		仮払金(総会・会報分)	250,000
		備品消耗品費	192,875
		HP関連費	1,021,650
		支出合計	2,799,655
		次期繰越金	1,312,292
合計	4,111,947	合計	4,111,947

(繰越金内訳) (株)日本郵政 1,233,505円
現 金 78,787円
1,312,292円

以上、会計事項について監査の結果、適正に処理されているものと認めます。

平成21年4月2日

会計監査 西高13回生 木谷勝子

編集後記

紙面を刷新した第4号会報発行から、半年。桜が終わりとゴールデンウィークが過ぎるといよいよ二年に一度の東京支部総会・懇親会が開催されます。この第5号は、当日の会場でお手にとられご覧になっている事と思います。また、当日ご出席できなかった方には、後日郵送いたします。

ちょうど第4号から第5号までの半年は、サブプライムローン問題を引き金に未曾有の世界同時不況に陥り、暗いニュースばかりが目立ち、総会・懇親会の出席者の数も当初少ないのではと危ぶまれたのですが、さすがにそこは「つゝじヶ丘同窓生」。前回は遙かに多く出席者数と聞き安心いたしました。記事からも「函館のバル街」や「海炭市叙景」の映画化の活動など、元気の素を創っている同窓生の姿が見られ、嬉しい限りです。今回の会報も多くの皆様のご協力により完成いたしました。特に函館在住の西高16回生・加納淳治さんの沢山の情報・記事のご提供に感謝いたします。

また、Trio東京支部の人々も、三千人近い会員の中から、特異な人だけではなく、ごく普通に生活している方も含めいろいろな切り口で会員お一人おひとりのお顔が見える様にご紹介して行きたいと思っております。今後ともご支援ご協力よろしくお願いたします。(事務局・高橋)

最大100名様の大宴会もOK! 少人数から大人数の同窓会・二次会に!
酒好きにはたまらない地酒・地焼酎、銘柄豊富! 西高同窓生大歓迎!

日本橋サンライズビル店
TEL: 03-3664-8388

東京都中央区日本橋富洲町11-12 サンライズビル地下1階/日本橋サンライズビル店オーナー 新出邦彦(西高16回生)

ランチタイム
十一時三十分〜十四時
居酒屋タイム
十七時〜二十時
定休日 土・日・祝日

お取り寄せスイーツ満載!
www.hokuto-jolicreer.com

全国物産展 大好評! 出品中

北海道・函館・北斗のケーキ屋

PÂTISSERIE **Joli Creer** ジョリ・クレール
代表取締役 佐々木博史(西高16回生)

北海道北斗市中央2丁目1-5 TEL.0138-73-0370 FAX.0138-73-0628